

ひとを育てる活動

辺境の子どもたちの「学びたい」を支える給食支援

新学期を迎えたバンリ小学校（開設5年目）の給食風景写真届きました



CMIP 運営の小学校	児童	教師
アトモロック (幼・1-6年)	152	3
ラムアフス (幼・1-6年)	56	3
ナブル (幼・1-6年)	223	6
バンリ (幼・1-5年)	179	4

合計610名、週3回の給食予算は一人一食5円弱です。

「野のゆり会」ほか、会員のみなさまの教育全体支援会費で支えています。

新学期が始まって間もない6月16日の給食メニューは、ハヤトウリと鶏肉入りスープをかけた山盛りご飯。山道を朝食抜きで登校する子どももいる辺境のCMIP校では、学校給食が通学を続けるモチベーションになっています。

教師の指導書支援で、質の高い教育を山の子どもにも

8年前、サランガニ州マラパタン町最辺境の村ナブルのCMIP校創設に際して、建設資金をいただいた千葉県鎌ケ谷市のICECKからは、その後も、教室増設や卒業生対象の通学バッグ寄贈など、正式名称ナブル・カマガヤ小の教育環境整備に協力いただいています。今年度のご寄付は、現地の最優先課題である教師たちの指導教材整備に充当させていただくことになりました。ナブルやバンリなどの辺境の新設校には、前号で報告のライアンやロザンナのように、新卒の奨学生が赴任するケースが多く、新指導要領に準拠した指導書が不可欠です。また、寄付金の一部は来年3月に卒業のナブル小3回生へのお祝いに充当させていただくことになりました。継続してのご支援に感謝申し上げます。

卒業した2名に替わるチボリ・カレッジ奨学金受給者が決まりました

— 新奨学生の手紙より —



HANDS奨学金のことを聞いた時は本当に嬉しかったです。幼い頃からの夢である教師を目指して、SCMSIを卒業後はミンダナオ国立大教育学部に進学しました。

6月に4年になると教育実習費が加わります。定収入のない家族に負担をかけられません。

家族は妹を含めて4人で、支えあって生きています。 アデレフェア・スガル (4/17)



奨学生募集を知り、すぐに応募しました。選ばれて嬉しいです。

SCMSIを卒業後、ジェネラルサントス市のスタンフォード国際大学の教育学部に進学、今年4年になります。卒業まであと1年です。頑張ります。ありがとうございます。

ダイアナ・ローズ(4/17)

レイクセブ町のチボリの子どもの場合、その多くは自宅から通うことができ、授業料も安いSCMSIカレッジ進学を選択しますが、初等教育と地域開発の2コースしかないため、外部の総合大学への進学も増えています。また、上記2名のように、小学校教師を目指す学生であっても、卒業後の教師国家試験に備えるため、教師陣や設備の整ったジェネラルサントスやコロナダル市内の総合大学の初等教育科を専攻する事例も見られます。

チボリのカレッジ生には、このように3年までは自力で頑張ったけれど、教育実習がある最終学年は資金的に厳しくなるケースが今後も増えると考えられます。カレッジ生支援会費は新規の場合、月額4,000円です。卒業までの1,2年だけでも支えて下さる会員も募集中です。ご協力よろしくお願いたします。

CMIP 経由で支援する新カレッジ奨学生も決まりました

ジェーン・マラヤン (19歳)



GFIカレッジ / ハイスクール教師課程 (英文専攻) 1年。前年度成績は平均92%
父(故人)、母ともにビラーン民族。
山腹の2haの畑でコーン、ココヤシ栽培
年収1万ペソ (約22,000円)
11人兄弟姉妹の末っ子

エフリン・カラヨン (22歳)



クロナシアカレッジ / ソーシャルワーク専攻1年。前年度成績は91%
父母ともにビラーン民族
父親は山腹の借地4haでコーン栽培
年収1万ペソ (約22,000円)
5人兄弟姉妹の長男